



静岡県・三島の地域おこし。

たった一人のゴミ拾いから始動したまち。

一人の市民の情熱が、絶命寸前だった地域の川の命を救った。当時30代の静岡県職員だった渡辺豊博さん。彼が描いていた25年後の「未来構想図」は、川だけでなく落ち込んでいたまちの経済再生のきっかけをつくった。



せせらぎを取り戻した源兵衛川のほとりに立つ、NPO法人「グラウンドワーク三島」の渡辺豊博さん。たった一人のゴミ拾いから、川とまちが再生した。

雨の日も続けた 源兵衛川のゴミ拾い

静岡県三島市を流れる源兵衛川。富士山の湧水を集めるまちの清流として市民に愛されている。だが、25年前は目を覆いたくなるほどの「ドロ川」だった。上流の工場群の汲み上げによって川の水量が減り、流域住民のゴミ投棄や生活雑排水で汚され、悪臭を放っていた。1987年、源兵衛川を憂えた一人の市民が立ち上がった。NPO法人「グラウンドワーク三島」の事務局長を務める渡辺豊博さんだ。渡辺さんは、たった一人でドブ川へ足を踏み入れ、清掃作業を始めた。雨の日も風の日もゴミを拾い、駅のトイレで背広に着替えて、新幹線に乗り込んだ。

そんな渡辺さんの背中を、地域住民は遠巻きに眺めるだけ。しかし、次第に青年会議所の若者たちが手伝うようになる。川底に堆積したヘドロをすくい取る時に発生するメタンガスを吸い込み、病院へ運ばれた参加者もいた。

やがて、傍観していた住民からも、手づくりのケキや湧水で淹れたコーヒの差し入れが届くようになった。町内会長からの応援も得られ、流域に13ある町内会で計186回もの勉強会を開いた。一方、工場には3年で46回も足を運び、源兵衛川への冷却水の増量を訴えた。努力の結果、清掃に参加する住民は多い日で100人を超え、川は次第に昔の流れを取り戻していった。

90年、ついに総事業費15億円

の源兵衛川の整備事業が県により始まった。8年の工事の末によりがえったのが現在の源兵衛川だ。

25年前に描いていた、地域再生のゴール

川がキレイになっただけではない。その後、三島市や三島市商工会議所が中心になりスタートした「街中がせせらぎ事業」などにより、湧水による魅力的な川や街中を散策するための「みしまつぷ」ができる。12年前にわずか5万部程度だったマップは、昨年40万部に達した。

市内外から人が集まればお金も動く。店主たちがシャッターを開け始める。彼らが自らのアイデアを捻り、三島コロッケなどの特産品を考案。商工業者の努力により閉店率が40%もあった中心商店街には、現在、空き店舗がない。驚くことに、25年前に一人でゴミ拾いをはじめたときから、渡辺さんはここまで絵図を頭に描いていたという。「当時は『そんな夢みたいな絵』と揶揄されました(笑)。でも、明確なロードマップがなければ活動は迷走し、誰もついてきません。いま全国で地域

再生に取り組みNPOが頑張っているが、「ゴールがどこなのかを掲げていない」と渡辺さんは言う。一方で、渡辺さんが常に口にしているのは、「行動」。「一人の心を変えられなければ、まちを変えるなんてできません。それには、言葉より行動。やってみせるしかない」。それが住民の参加呼び込み、そうしてはじめて意識が変わる。「地域再生のプロセスを住民自ら体験することで愛郷心が生まれ、意識が変わっていく。NPO側は小さな行動を確実に積み重ね、ひとつのステップごとに答えを出して示すことで、住民や企業、行政も賛同するようになるのです」

自然を取り戻せば、地域も日本も再生できる。



右上／源兵衛川に生息するホトケドジョウ。環境省の絶滅危惧種に指定。右下／川沿いの木には野鳥の姿も。下中／源兵衛川の三島梅花藻。左上／佐野美術館・三島梅花藻の里は年間10万人が訪れる観光スポット。左下／市内の川から姿を消した三島梅花藻を増殖させる取り組みも実施。

再生に取り組みNPOが頑張っているが、「ゴールがどこなのかを掲げていない」と渡辺さんは言う。一方で、渡辺さんが常に口にしているのは、「行動」。「一人の心を変えられなければ、まちを変えるなんてできません。それには、言葉より行動。やってみせるしかない」。それが住民の参加呼び込み、そうしてはじめて意識が変わる。「地域再生のプロセスを住民自ら体験することで愛郷心が生まれ、意識が変わっていく。NPO側は小さな行動を確実に積み重ね、ひとつのステップごとに答えを出して示すことで、住民や企業、行政も賛同するようになるのです」

黙々とゴミ拾いをする渡辺さんの姿を目にした流域住民が一人、また一人と心を動かされ、ゴミ拾いに加わっていったように。いま、「グラウンドワーク三島」は市内の他地域を流れる松毛川と境川の自然保全活動をはじめてい



渡辺豊博
わたなべとよひろ ●1950年、静岡県生まれ。「グラウンドワーク三島」事務局長。東京農工大学農学部卒業後、静岡県庁に入庁し、農業基盤整備事業などを担当。2007年に農学博士号を取得し、08年から都留文科大学文学部教授。著書に「三島のジャンボさん」(春風社)など。
<http://www.gwmishima.jp/>

25年前の源兵衛川って?

ヘドロとゴミで黒く淀み、悪臭を放っていた1987年頃の源兵衛川(右ページのメイン写真と同じ場所)。「川端」と呼ばれる川面に突き出た棧橋で食器を洗っていた良き時代の面影は消え、流域住民は川に背を向けた生活を営んでいた。



NPO法人「グラウンドワーク三島」提供



右上／グラウンドワーク三島が運営する「街中カフェ」。地域の高齢者が切り盛りする。右中／川の飛び石を犬と散歩する人の姿も。右下／「はたの里」にもホテルが舞う。左上／「夢のようだ」と嘲笑された「構想図」が今、現実に。左下／夏になれば子どもたちが元気に川遊びする。

地球とつながる、カードライフへ。AXUグリーンセレクション。

セディナカードAXU(アクシュ)は、月刊ソトコトの全面協力により誕生した、環境コラボレーション型のゴールドカード。利用額に応じて、ボルネオ保全トラストジャパン、パードライフ・アジアなどの環境保全団体に寄付金が送られます。ソトコトが制作・運営する会員向けのWEBマガジンも創刊し、環境に関する豊富な記事、エッセイやセミナー、グリーンショッピングの案内など、オリジナルのコンテンツを配信中。詳しくは、下記のサイトをご覧ください。

AXU Web Magazine
<http://www.axuweb.jp/>

オーディのオーナー向けカードが誕生!

セディナは、ドイツを代表する高級車ブランド「オーディ」のオートローンと保険業務を展開するオーディ ファイナンシャル サービスと提携し、「Audi Ambassador Card」という新たなゴールドカードを発行します。このカードは、オーディ独自のサービスとポイントプログラムに、AXUカードのサービス・特典プログラムを付加したゴールドカードです。環境貢献型ゴールドカードならではのサービスと価値観を提供し、カーライフにとどまらない多様なライフスタイルをサポートします。2011年10月から、オーディ正規販売店にて募集を開始しています。